

# 農の架け橋 地域と共に

— 白子町農業委員会だより NO. 23 —



令和元年9月  
編集・発行/  
白子町農業委員会

農業委員及び農地利用最適化推進委員を皆さんに紹介します。

## 「農から生まれる喜び」心も身体も豊かにする…

白子町北高根 齋藤重雄さん（農地利用最適化推進委員）

本格的な夏を迎える前の晴れた朝、北高根地区にある圃場に行った。一面に広がる大地の緑は、太陽の光を浴び、一層の力強さを見せてくれている。「この風景を見ていると、子どもの頃の懐かしい思い出や、匂いが蘇ってくるんだよ。」と、齋藤さんは話す。約40年間、会社勤めをした後農業に取り組み、現在は、水稲栽培240aを手掛ける。



「会社勤めをしていた頃は、正直、農業というのがあまり分かっていなかった。稲作も一時期、知人に頼んでいた。定年退職となり農業をやってはみたものの、歳だけ取っていても全くの素人。救ってくれたのが、子どもの頃から遊んでいた地元の仲間だった。昔からの仲間と一緒に米作りに取り組み、工程一つひとつに注意を払い作業が終わると、ほっとすると同時に楽しみが生まれた。そして、大切に育てた苗が季節とともに稲穂を垂らし収穫となった時に、楽しみが喜びに変わった。」と話をしてくれました。

推進委員としての抱負を聞いたところ、「現在の自分があるのは、地元の仲間の支えがあってのもの。これからは農業者のよき相談相手となり、白子の美しい田園風景を守るために働きたい。」と教えてくれました。

また、齋藤さんは、船釣りが趣味で度々出かけるという。「海の波に揺られながら釣りをしている時は、時間がゆっくり流れて心がとても豊かになる。今の俺の米作りはこれと似た感じ。自然の中での喜びを求めて動くことで、また頑張ろうと、明日への元気になる。」と、笑顔で話す姿に、充実した毎日を過ごしていることでの心と身体の豊かさが感じられました。



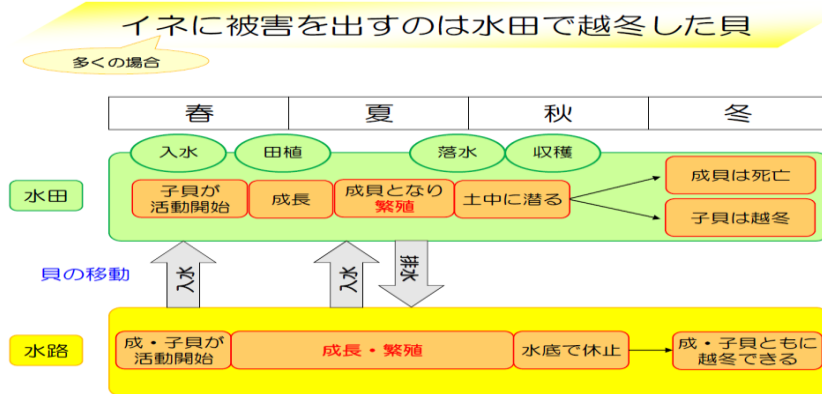
【どこまでも続く青と緑の美しい田園風景】



【大物真鯛を釣り上げた時の気持ちは特別】

## スクミリンゴガイ(通称:ジャンボタニシ)の防除対策について

スクミリンゴガイ(通称:ジャンボタニシ)は、1980年代に食用に導入されたものが野生化したもので、県内では九十九里地域を中心に多く発生しており、田植え直後の若苗を食害し欠株を発生させてしまうことから農業者はその対策に大きな労力を伴うばかりではなく、被害の程度によっては大きな減収となっており問題となっています。今回はその防除対策のポイントを考えていきます。



### ○ 厳寒期の耕うんと水路の泥上げ

水がないとジャンボタニシは土に隠れます。寒さには弱いですが、冬の平均気温が高いと越冬貝が増えて、翌春の稲に被害が発生しやすくなります。

- 厳寒期に田を乾かし耕起し、貝の破碎、越冬中の貝を寒気にさらします。なお、耕うんは走行速度を遅くするとともにPTO回転数を早くし、浅く細かく耕し、数回行うことで殺貝効果が高まります。
- 用水路で越冬している貝の対策として、泥上げを行います。(地区全体で実施すると効果が高まります。)

### ○ 水田の取水口にネットを設置して侵入を防止

ジャンボタニシは、水路や取水口から用水とともに侵入します。

- 水田の取水口に目合い5~10mmのネットを設置します。
- 畦畔を高くし、周辺の水田や水路からの貝の侵入を防ぎます。

### ○ 苗移植後2~3週間は、水深4cm以下の浅水管理

深水ではジャンボタニシが活発に移動できるため、被害が拡大しやすくなってしまいます。

- 深水部を作らないように代かきを丁寧に行い、田面の均平を保ちます。
- 苗が4葉期に達するまで(移植後2~3週間)は、水深4cm以下の浅水管理を行います。

### ○ 貝の捕殺、卵塊の除去

貝、卵塊は見つけ次第捕殺します。(用排水路は、清掃時等に地区全体で実施すると効果が高まります。)

- 貝は素手で触らないこと。卵塊は産卵後早いうち(ピンク色)に水中に払い落とすと、ふ化はしません。

### ○ 薬剤での防除

薬剤には、食べさせて殺貝する剤(メタルデヒド系)、行動抑制等により食害を防止する剤(チオンクラム系)があります。

#### 【主な防除薬剤】

(農業登録情報 平成30年11月 現在)

薬剤名	使用時期 / 使用回数	使用量	備考
スクミノン	収穫 60 日前まで / 2 回以内	1~4kg/10a	殺貝(食毒剤)
スクミノンベイト3	発生時	2~4 kg/10a	殺貝+食害防止(食毒剤)
スクミハンター	収穫 45 日前まで / 3 回以内	1~2 kg/10a	食害防止
キタジンP粒剤	初期 / 2 回以内	3~5kg/10a	殺貝+食害防止
パダン粒剤4	収穫 30 日前まで / 6 回以内	4 kg/10a	食害防止

食毒剤の前に食害防止剤を使用すると食毒剤の効果が発揮されません。併用する場合は、食毒剤を処理してから、7日以降に食害防止剤を処理します。